

千葉果弘先生から与えられたこと

千葉先生は、国際基督教大学卒業後、長年のユネスコでの勤務を終えられて、その後に、教育学科に着任されました。

千葉先生ご自身の国際現場での実体験に裏付けられた指導と教育は、教育学科の学生や教師たちのみならず、国際基督教大学全体にわたって非常に大きな影響を与えました。

たとえば、教育の場面では、教育学科以外からの学生も、講義などに多数集まり、国際教育について、特に、「発展途上国」などについても熱心な指導がなされました。

講義以外でも、千葉先生は非常に多くの学生・院生（教育学科以外も含めて）の論文指導もされました。

千葉先生の面倒見の良さ（つまり具体的な指導）は、素晴らしいものでした。

週一回になされた「リテ研」には、学生・院生のみならず、卒業生、国際的場面で活動している現場の人間も多く参加したと聞きます。これは、「アメリカの大学にまさる、具体的で豊かな内容だ」と感想をもった人もいたそうです。

また、千葉先生は、希望する学生、特に、大学院生には、実際にアジア・アフリカなどの現場で「事実」に触れるチャンスもつくられていました。

このチャンスを利用して参加した学生たちが、自分の関心を深め、広め、そして、その将来を決定する事態を生んだことも少なくないそうです。

千葉先生は多くの役職にも就かれましたが、わたしにとって一番印象的なことの一つは、教育研

究所長をなされたことでした。毎年クリスマスには、教育研究所主催のパーティが開かれ、職員や講師の先生方をお招きするのですが、必ず、千葉先生のセンスと鼻にかなったすばらしいワインも準備されるのです。

千葉先生のご着任以来、教育学科の性格は大きく変わりました。

国際基督教大学の建学の基本的理念の一つとしての「国際性」が、実体化する具体的な実例を示されたと私は感じています。

千葉先生は、ご自身の研究関心については、常に、具体的な現実の変化に密着してお考えになっておられました。教育について、根拠の不明確な主張がされることをお好きではなかったような気がしています。教育学の課題は常に、具体性と切迫性をもつということもお考えのようでした。教育の思想史を研究しているわたしにとっては、これらは常に意識すべき課題であります。

千葉先生、国際基督教大学での、そして教育学科でのお働きを感謝いたします。そして、どうか、今後ともご指導下さい。心からお願いいたします。

—— 林 昭道 HAYASHI, Akimichi

● 国際基督教大学 International Christian University